

山行報告書

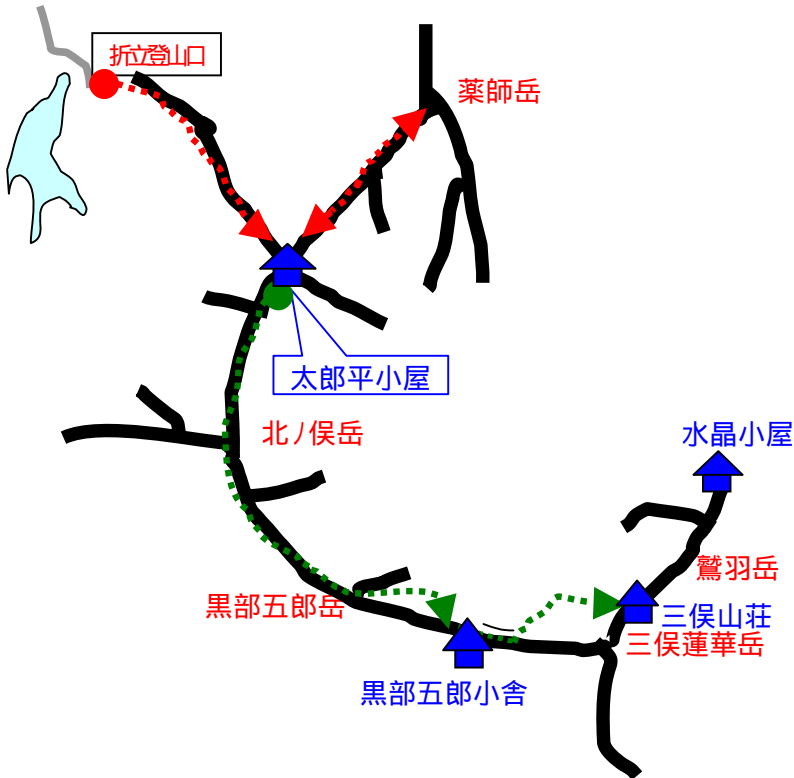
作成:2007年8月31日

愛知岳連 岡崎山岳会

山名[山域]	薬師岳・黒部五郎岳「北アルプス」	目的、方法	夏山を楽しむ
期間	2007年8月15日～16日	形態	山小屋泊(1泊2日)
参加人数	1人		

行動記録:8/14(火)晴れ 安城発(1945)==豊田南 IC(1955)==美濃 IC(2045)==飛騨清見 IC(2135)==道の駅「アルプ飛騨古川」(2210,2230)==道の駅「細入」(2310) 8/15(水)晴れ時々曇り 道の駅「細入」(515)==料金所(545,600)==折立 PKG(635,645) --三角点--五光岩ハッチ--ハッチ(945,1010)--ハッチ(1100,1120)--太郎平小屋(1140,1240)--薬師峠--薬師岳山荘--薬師岳(1445,1515)--太郎平小屋(1710) 8/16(木)晴れ 太郎平小屋(4:50)--北ノ俣岳(630,6:40)--赤木岳(710)--中俣乗越--黒部五郎岳肩(1015,1020)--黒部五郎岳(1030,1040)--黒部五郎岳肩(1045,1053)--黒部五郎小舎(1255,1345)--三俣蓮華岳分岐--三俣山荘(1615)

概念図:



日誌:8/14(火)

豊田南 IC から入りいつもより多いマゲロードを経て飛騨清見 IC を降り、道の駅「細入」まで走る。こじんまりしていて騒音もあるので、公園脇へ移動し車中仮眠する。

8/15(水)

有峰口駅を確認後、料金所には12～13台の車が6時開門を今かと待っていた。30分ほど走ると駐車場からあふれ出た車に驚くが、雑踏を覚悟していた無料休憩所は静かで遭難慰霊碑に無事の下山を願い出発した。よく踏まれている樹林帯から次第に整備された登山道に変わり、草尾根に出るが暑く、こまめに休息した。途中で赤木沢ハチーに出会い元気を貰ったせいか太郎平小屋は近くに感じられた。宿泊手続き、昼食を取り慌ただしく軽装備で薬師岳を往復する。木道歩きから薬師峠を経て薬師平までくるとチングルマ、ハクサンイチゲが咲き、さらに大きなケルンとハイマツ帯も抜けると、キンバイなどの彩る花々も多種多彩で見事だった。ガレ場を抜けると稜線に出て薬師岳山荘を後に白くザレた岩屑道を歩くど荒廃した遭難

小屋とケルンがあり、愛大生が迷い込んだ尾根だと知る。好天に感謝しながらゴロゴロとした岩を登りきると山頂だ。赤牛岳は牛が寝そべっているように鎮座し、未踏の山々、踏んだ山の展望を地勢図を広げて満喫した。明日、明後日の長大な稜線ルートを眺めながら下山すると、薬師峠のテニ場では美味しそうな夕げの匂いと和やかな雰囲気漂っていた。「もう少し…」と木道を登り返し、明朝の登山道を下見して登山靴を脱ぐ。昨日までの太郎平小屋は大盛況らしく、本日2回目の夕食は20人ほど。今年も同席した熱き人々と山話に盛り上がり20時就寝。

8/16(木) 予定の4時は真っ暗で、独り歩きには…。携帯電話忘れに気づき4時50分出発となる。朝露残る草原の木道を緩やかに登り、蒼い有峰湖、お花畑の稜線漫歩を楽しむ。特に北の俣岳から眺めた笠、乗鞍、御嶽の三山は忘れがたい。高度をあげながら大小のピークを巻き、標高差300mの登りは、今日一番の急登だ。重い脚を上げ、休み々黒部五郎岳肩まで登り、ザックをデポして大展望の山頂を往復する。カール経由での下りを慎重に歩くと、雪渓の水場は、カールの花園に小さな沢が流れていて、もっとゆっくりしたいところだった。風のない樹林帯を抜けると最鞍部の黒部五郎小舎。カウどんを食べ遅れを挽回するつもりが…「ゆっくりコース」と「直登コース」の「ゆっくりコース」もなかなかの登りで思ったより時間を要した。開けた場所で携帯使用可と小舎の人から聞いていたが不通だった。気がかりで思索しながら歩いた。長丁場の疲れだろうか。三俣山荘は遠く、蓮華岳を巻き、最後の登り返しを少し下るとやっと青い屋根が見えてきてほっとする。登山道の雪をみやげに幾つかの黄色のテントに足を止め歩くと、遅れたにもかかわらず、I氏がいつもの笑顔で出迎えてくださり嬉しかった。水も豊富なテニ場で、アーバンロードに染まる槍の穂先と鷹羽岳を仰ぎ、Y氏の美味しい手料理をいただきながら、無事合流できたことを慎ましく喜んだ。

感想:

登山道はよく整備されて歩きやすく、大展望とお花畑の夏山を楽しむことができた。悪場、難所もないが広大な稜線では身を隠すところがないので、天候、体調の変化に注意し、無理をしないのが大切であると痛感した。途中で合流する計画に無理はないが、不安定要素の多い山でどうすべきであったか、今も悩ましく思う。